

研究授業（6年算数「角の大きさ」廣田先生 5月1日）を終えて

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業
～数学的活動により学ぶ楽しさやよさをあじわう授業をめざして～
考える力・協働する力・がんばり抜く力

次回の富田先生の授業までの「共通実践」と「取組の検証」

視点①短い時間で題意を把握できるようにする。

視点②わからない子どもが主体性をもって動くようにする。

視点③定着確認のために何を徹底しておくべきか考える。

「はいっ！」
(活気のある学習規律)

(富田)先生の改善点
カード学習を行い、活気のある学習規律の徹底につながるようにする。
協働する場面では、わからない児童がききに行くように指導していく。
発表や相手に伝えるときに相手意識を持たせていく。



(永田)先生の改善点
活動内容をしぼる。
時間がかかりすぎないように考える。
適用題→まとめ→キーワード→めあての教材研究を大切にする。

(大津山)先生の改善点
学習規律の徹底を意識する。
タブレットを活用していく。

(鴨川)先生の改善点
課題設定の工夫と終末のまとめの整合性を意識する。
子どもが主体的に見える学習規律の徹底に取り組む。

(前田)先生の改善点
学習規律の徹底を意識する。
相手意識を持った発表の学習訓練。

(小坂)先生の改善点
定着確認の徹底の時間の設定。
アナログとデジタルの利を生かした授業内容の構築。

(樫原)先生の改善点
協働の場面で、目的を明確にしておく。
わからないときにただ動くのではなく、何がわからずにどうしたいのか目的をもって動くようにする。



研究授業、ありがとうございました。この時期に授業を見せていただき、それをもとに協議したことで、考えが共有でき、共通実践につなげることができたと思います。

今年度も昨年同様事後研の雰囲気がとても温かいと感じました。今後も授業を行った先生が「やってよかった。」と思えるような校内研にしていきたいと思っておりますので、たくさん意見を出していただくなど、ご協力をよろしくお願いいたします。